

おらしよ物語：日本におけるキリスト教の歴史

日本におけるキリスト教は、伝来と繁栄、禁教と潜伏、解禁と復興という3つの時代を歩んできました。4世紀にわたるその歴史のなかで、信徒たちはそれぞれの時代をどのように生きてきたのでしょうか。これは、彼らと彼らの信仰の物語です。

おらしよ物語（1）

キリスト教の伝来と繁栄

キリスト教を通じて日本とヨーロッパの交流が始まる

15世紀中頃、ポルトガルは世界に勢力を拡大し始めた。15世紀の終わりまでには新たな貿易の拠点を求めてアジアに進出し、16世紀半ばに東南アジアに到達した。

イエズス会（ローマ教皇パウロ3世の承認をうけて1540年に創立）は、ポルトガル国王の要請を受けて宣教師をインドに派遣した。宣教師らの任務は、イエズス会のゴアの拠点を中心に布教活動を行うことだった。イエズス会の宣教師の一人であったフランシスコ・ザビエルは、別のポルトガルの貿易拠点マラッカでひとりの日本人と偶然出会った。ザビエルは、その日本人との会話をもとに日本での布教を決意し、1549年、鹿児島島に上陸した。これがキリスト教を中心とした日本とヨーロッパの交流の始まりだった。

（挿画：庄司好孝）